

(別紙様式)

(A3判横)

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校)

目指す学校像	地域に貢献する伝統校として、豊かな人間性と教養、たくましさを備え、社会で活躍できる生徒を育てる。
--------	--

重点目標	1 主体的・継続的な学びの実現 2 一人ひとりを伸ばす進路指導の充実 3 豊かな心を育む生徒指導及び特別活動の充実 4 広報活動の充実と家庭・地域との連携の強化
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学習サイクルが十分確立していない生徒がいる。生徒の家庭学習を促し、主体的かつ継続的な学びを実現する必要がある。	学習サイクルの確立を図り、学力の3要素を育成する観点を踏まえ、主体的・継続的な学びを促す。	①それぞれの授業において予習・復習を促す働きかけを行う。 ②知識・技能の確実な定着を図る週末課題を課し、計画的な学習を促す。 ③授業の中にペアワークやグループ学習等の相互学習を取り入れるとともに必要に応じ「振り返り」の時間を確保する。 ④研究授業・公開授業を校内外に向けて行う。 ⑤新たに「学びの基礎診断」を実施し、その結果を生徒面談等に生かす。	①各教科担当が予習・復習を促す働きかけを行い、生徒の予習・復習への取組が向上したか。 ②週末課題を課し、計画的な学習につなげることが出来たか。 ③「何が出来るようになったか」を概ね実感できた生徒の割合が7割以上となったか。 ④地域の中学・高校等の教員が本校の公開授業・研究授業に参加したか。 ⑤「学びの基礎診断」の結果を活用し個人・学年の学力面の課題発見につなげることが出来たか。			
2	第一志望で進路を決定する生徒が多くを占めているが、さらに高い志を持たせ、社会で活躍できる生徒を育てていくことが求められる。	生徒にそれぞれ高い目標を持たせるとともに、進路実現に向け指導の研究・工夫を行う。	①進路の手引きや卒業生との懇談会をさらに工夫・改善し、生徒に将来への展望を描かせる。 ②土曜課外・長期休業中の課外授業等を計画的・組織的に行う。 ③生徒にシステム手帳を購入させ、計画を立てること、見直しを持つことの重要性を学ばせる。(1学年) ④新大学入試制度に関する校内研修会を実施する。 ⑤定期考査の一部に思考力・判断力・表現力を測る問題を出題する。	①進路行事を活用し、生徒が将来の進路について考えることが出来たか。 ②土曜課外・長期休業中の課外について事前に計画を立て、組織的に行うことが出来たか。 ③スケジュール管理ができる生徒の割合が7割以上になったか。(1学年) ④新大学入試に向けて、本校としての指導の重点を明確にし、方策が立てられたか。 ⑤定期考査に記述式の問題を出題し、思考力・判断力・表現力を高めることが出来たか。			
3	授業・部活動・学校行事等に取り組む生徒の姿勢は評価されている。生徒の自己肯定感を高めるとともに教育相談体制の整備が求められる。	生徒一人一人が心豊かに学校生活を送れるよう支援する。	①部活動、学校行事、ボランティア活動への積極的参加を引き続き進める。 ②芸術鑑賞会を活用し、情操教育を進める。 ③教育相談に関する組織を整える。 ④教育相談への理解を深めるために、外部講師を招聘し研修会を実施する。	①部活動への加入率が9割を超えたか。 ②芸術鑑賞会について生徒の満足度が高まったか。 ③教育相談に関する組織が整備できたか。 ④特別支援教育の視点を取り入れた教育相談について研修会を行い、理解を深めることができたか。			
4	101年目を迎える学校としてさらなる広報に努めるとともに、今後は開かれた学校づくりを一層進める観点から、これまでの家庭・地域との関係を再検討する必要がある。	広報活動の一層の工夫に努めるとともに、新たに防災の観点から家庭・地域との関係を構築する。	①HPや学校だよりを活用し、学校行事や部活動等の積極的な情報発信を続ける。 ②生徒の母校訪問、生徒主体の学校説明会の実施を継続する。 ③PTAと連携して防災計画を策定する。 ④地域ボランティアについて生徒の参加を拡大する。	①HPにさまざまな場面を取り上げることが出来たか。 ②生徒が主体となって進める説明会等が実施できたか。 ③12月時点の進路希望調査で1.0倍を超えることが出来たか。 ④家庭・地域と連携を含めた防災マニュアルが策定できたか。 ④地域ボランティアについて参加生徒の裾野を広げることが出来たか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	